

2024年度神学校週間奨励

「献身の連続性のために」

九州バプテスト神学校 理事長 踊 一郎



日本バプテスト連盟には3つの神学校があります。西南学院大学神学部、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校、それぞれの働きのために多くの方が日々祈り支えてくださることに心より感謝しています。

以前ある神学校の教師が「今日の福音宣教は難しいと言われるが、長いキリスト教の歴史の中で一度でも福音宣教が容易だった時代があったでしょうか」と言われ、本当にそうだと思います。福音宣教はいつの時代も様々な困難の中で行われてきたのではなかったでしょうか。厳しい状況下でキリスト者たちは福音理解を深め、宣教方法を模索し、それと同時に宣教者育成に心血を注いできたのです。

「油断大敵」とは「油断して失敗を招くことを戒めた言葉」ですが、その由来は「毎日、朝夕の2回、燃料の菜種油を絶やさないように僧侶が菜

種油を注ぎ足し続けている。油を断つことは比叡山で学ぶ僧侶がいなくなることを意味しており、これが『油断』の語源になった」というのです。これはキリスト教の福音宣教者育成の働きについても同様です。

連盟の「これからの伝道者養成検討委員会」が作成した「これからの伝道者養成アクションプラン及び財務基本計画」（連盟第69回定期総会承認）には「献身の連続性」が記されています。信徒一人ひとりの学びと献身が深められ、教会の祈りが積まれていく中で教役者としての献身が起こされていくのです。教会の明るい将来はまさにそこにあると思います。

今こそ福音宣教者の育成が求められています。信徒、教会学校教師、教会役員の皆さん、主があなたの心に語りかけておられるなら、神学校での学びを始めませんか。聴講からでもいいのです。その学びはきっと楽しく有益なものになり、練達した働き人へとつながっていくことでしょう。

「神学校献金習慣？」（2024年度神学校週間にあたって）

奨学金委員長 北村慎二（宝塚教会）



今般、神学校献金の用途拡大が連盟の定期総会で決議され、連立立等神学校の支援のためにも用いられることとなりました。「西南学院大学神学部の入学者が少ないのだから、神学校献金もそれほど力を入れなくてもいいのでは…」という声を聞くこともあります。確かに収支のバランスを取ることは大切なことですが、お金が余るような無駄なことを神さまはなさらないとしたら、もっと献金を増やすことができれば、もっと神学生を神さまは起こしてくださるに違いない、と思うのです。

ある教会の献金袋に入れてある献金カード（献金記録）には、縦の行に4月から3月までとボーナス月を併せて14ヵ月の行があり、横の列に月約献金や感謝献金等のほか、神学校献金の列が設けられているとのことでした。その教会では、何と神学校献金を年14回献金しておられる方もおられるのだそうです。

イエスさまの十字架は、イースターの時にだけ思い浮かべて終わりではなく、毎日思い浮かべるべきものです。

また、奨学金委員会も奨学金の支給を決議して役割が終わるのではなく、その後、奨学生が卒業され、もっぱら伝道の業に従事されておられるかどうかをフォローし、近況報告や返還状況を確認して、返還金の完済と奨学金の償却に至るまでがその役割となります。就学期間も含めれば10数年間も関わり続けることになる大変息の長い取り組みであり、その間に奨学金委員も替わりますので、連綿とバトンをつないでいく必要があります。

神学生のことを祈りに覚えていただくことはそれだけでとても感謝なことなのですが、奨学金献金という目に見える形で、神学生に対する愛を表現することができるのも、奨学金献金の大きな魅力だと思うのです。

神学校週間が、願わくは「神学校献金週間」の期間だけではなく、私たちの日々の祈りの中で「神学校献金習慣」となることを期待しております。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移

年度	献金額
2014年度	2,284万円
2015年度	2,227万円
2016年度	2,235万円
2017年度	2,299万円
2018年度	1,986万円
2019年度	1,944万円
2020年度	1,603万円
2021年度	1,588万円
2022年度	1,555万円
2023年度	1,577万円